パラアート地域交流サロン構築は現状に即した試行錯誤が大切

パラアート地域交流サロンの構築 ～ 各施設の現状にマッチしたものを

弊団は、川崎授産学園と共催している音楽交流サロン「奏」の経験を基に、障がい者支援施設の皆様と一緒に、「障がいの有無にかかわらず誰もが参加し交流できる地域交流の拠点」として「パラアート地域交流サロン」開設の検討を図っていきたいと考えています。

施設によって状況が異なるため、音楽交流サロン「奏」と同じスタイルのものの横展開を考えているわけではありません。実際のところ、ソレイユ川崎での「響」は「奏」とはスタイルが全く異なります。

また、音楽に限らず、絵画や文芸など他のアート、他の分野を活用しての交流も可能ですし、端から完成形を目指すのではなく、試行錯誤しながら徐々に形を作っていくことが大切であると考えています。

パラアート地域交流サロン開催までの概要フロー

1. 現状の把握
2. パラアート地域交流サロン構築企画の策定
3. 運営体制準備（ボランティア募集等）
4. オープニングイベント（試行的開催）
5. サロン（定期的・継続的）開催

【お問合せ】
一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町2－4－5 杉商ビル８F
☎ 03-6740-1650　03-5283-8440　✉ info@socialartists.net
http://www.socialartists.net

公益財団法人川崎市文化財団 平成29年度パラアート推進公募型事業委託

パラアート地域交流サロンで ノーマライゼーション

～ 川崎授産学園・音楽交流サロン「奏」を事例に ～

筆字：加藤孝子

一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク

パラアート地域交流サロンが地域に開かれた交流拠点の一つに

パラアート地域交流サロンとは？ ～ 音楽交流サロン「奏」がその原型

2012年4月、川崎授産学園と共催で音楽交流サロン「奏」がスタート

「障がいの有無にかかわらず誰もが参加できる交流の場」をモットーに、一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク※（代表理事：江口義実、以下「弊団」）は、川崎授産学園（麻生区細山）との共催で音楽交流サロン「奏」をスタートさせました。単なるボランティアによる訪問コンサートとは異なり、利用者・職員・地域市民・弊団レギュラーメンバーが演奏者・MC・スタッフ・観客となり、毎回皆で作る交流の場となっています。現在も、奇数月：第2・第4木曜日午後、偶数月：第4木曜日午後に開催し、継続しています。

音楽交流サロン「奏」の様子①

2013年夏、コーラス「奏」が誕生

2013年に開催された「コーラス講座」の参加者有志とともに結成したコーラス「奏」では、地域の皆さんと川崎授産学園の利用者の皆さんが一緒になってコーラスを楽しんでいます。その参加者は増え続け、現在40名を超えるコーラス隊となっておりサロンに不可欠な存在です。（活動日：毎月第2・第4木曜日午前）

音楽交流サロン「奏」の様子②

2016年2月、コンサート「奏」がスタート

サロン「奏」が平日開催であることから、休日の「奏」開催を望む声に応えるべく、川崎授産学園の体育館で大規模なコンサートを、毎年1回開催しています。このコンサートの目玉であるオーケストラ「奏」はコーラス「奏」、地域の演奏家の皆さん、弊団レギュラーメンバーなどが合同で演奏します。

コーラス「奏」

2017年1月、サロン開催100回を迎え、今もなお継続開催中！！

現在、音楽交流サロンは100回の開催を超え、その勢いは止まる所を知りません。このことは複数のメディアにも取り上げられ、注目を集めました。

「奏」がきっかけとなって

川崎授産学園では、弊団が推進させていただいている絵画教室や、新たに喫茶コーナーにおける図書環境作りについて、地域の皆様との交流という観点で検討が始まっています。また、お隣のソレイユ川崎で2017年5月より、ベル＆パーカッションアンサンブル「響(ひびき)」が立ち上がり、同年11月にコンサート「奏」で初ステージを踏み、継続的な活動として推進しています。

オーケストラ「奏」

アンサンブル「響」@ソレイユ川崎

障害者と地域 音楽交流

川崎授産学園「サロン 奏」が100回目

「利用者の自信につながる」

東京新聞(川崎版)での紹介

※一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク：「アートで社会貢献」をモットーに活動する非営利団体。川崎市を主要活動拠点の１つとして、ノーマライゼーション、児童虐待防止、社会的養護、国際交流に貢献しています。

利用者が地域を繋げる・地域が繋がることで自立が芽生える

関係者インタビュー ～「奏」がどんな影響をもたらしていますか？

川崎授産学園：学園長 石井和明さん、市民交流事業担当 和地玲子さん

石井学園長(右)と和地さん(左)

一番は、何と言っても利用者さんの表情・性格の変化でしょうか。「奏」に参加している利用者さんは性格が明るくなり、表情も穏やかになったと思います。トラブルも減りましたし、コミュニケーションも豊かになり、自立心が芽生えてきてもいると思います。「奏」では、参加利用者自身に皆さんの前でMC・ダンス・演奏等で、自分の役割があることが、とても良い影響をもたらしていると思います。

さらに、一緒に参加していただいている地域の皆さんも、ボランティアという枠を超え、毎回の「奏」を日頃の「楽しみ」として楽しく過ごされているのがとても印象的です。

以前は、単発的なイベントや講座開催があっても、マンネリだったり、利用者と地域の方が継続的にコミュニケーションを図ることが困難でした。しかし、「奏」が定期的かつ継続的に開催され、コミュニケーションも多く図れ、言わば、共生の場となっているので、言葉通りの「交流」が図られています。

また、業務の特性上、職員は、施設内という内向きの意識が強くなりがちですが、「奏」によって地域という外向きの意識が利用者さんにとってプラスになるということを実施体験したことが大きな「力」となりスキルアップに繋がりました。さらに、道路に面した学園の入口には大きな看板を作り、「本日の催し物」「今月の催し物」などを掲載することで、「川崎授産学園ではいつも何か楽しいことをやっている」ということを通りがかりの地域の皆様へお伝えする大切さも、職員の中に浸透してきています。これからの福祉施設は逆転の発想が必要かと思います。清水の舞台から飛び降りるほどの勇気が必要かもしれませんが、飛び降りてしまえば、新しい福祉の形が見えてくると確信しています。

「奏」レギュラーメンバー：石井百合さん、渡辺麻衣さん

石井さん(右)と渡辺さん(左)

私は、「奏」がスタートする話を聞くまでは、川崎授産学園とは全くご縁がありませんでした。普段は、市民オーケストラや室内楽でヴァイオリンを演奏していますが、毎回の「奏」の企画やMC、演奏、コーラス奏の事務局など、利用者さんや地域の皆さんとの触れ合いは特別なものです。一言で言えば「そばにいる」という感覚でしょうか。音楽を通じて、これ程、人と人との触れ合いの楽しさを得られることは、他では経験できなかったことです（石井）。

実は、初回の「奏」で自分の演奏を受け入れてくれるのかが心配でしたが、取り越し苦労でした(笑)利用者さんの音楽に対する受容性の高さ、感じ方、楽しみ方、全てが初めて経験するものでした。日頃、歌を教えていますが、コーラス奏でのレッスンは、逆に色々なことを教えてくれます。また、「奏」には一体感と言いましょうか、自然と一人一人が調和を図っているような不思議な空気があります（渡辺）。

「奏」レギュラーメンバー

レギュラーメンバーは「奏」を通じて繋がった演奏家集団で、サロン「奏」やコンサート「奏」では、プロフェッショナルな演奏を披露しつつ、利用者さんのノリの良さについつい乗せられています。

コーラス「奏」メンバーの皆さん

コーラス「奏」メンバー

メンバーの皆さんは、「利用者の皆さんの優しさや明るさが暖かい気持ちにさせてくれる」「利用者さんの笑顔にいつも元気をもらっている」「居心地が良い」と異口同音に言います。利用者さんが人と人を繋げてくれるということが、その言葉に表れています。

また、障がいを持つお子さんと参加されている方も数組おり、「初めて娘と同じ舞台に立つことができた時は、嬉しくて涙してしまい、上手く歌えませんでした」「自信を持って子育てできるようになりました」という声も頂いています。

さらに、「障がいを持つ方とのコミュニケーションが特別なことではなくなった」「街で障がいを持った方が困っていたら気軽に声をかけられるようになった」など、障がいに対する気持ちの変化も伺えます。